



函中だより

雄々しく 気高く

学校教育目標

夢や希望の実現に向けて 共に高め合う生徒

函南町立函南中学校
令和3年2月8日発行
文責 若月 哲也

昨日をもって今日を照らし、明日を思って今日を行う

毎年、この時期になると思い出す言葉です。今日という一日をどういう気持ちで過ごすかで、明日からの自分が決まるということ、「今」を大切にすることについて考えさせられます。私は、人が成長するというのは、過去・現在・未来の自分を意識できるようになることだと常々思っています。そういう自分になれたなら、多少の困難や試練に柔軟に対応したり、仮に失敗しても前向きにとらえ直ししたりすることができるようになると思うからです。

コロナ対応に追われた令和2年度も、残り2か月を切りました。我慢の多い8か月でした。子どもたちは本当に前向きに学校生活に取り組み、函中生として確かな成長を見せてくれました。いよいよ卒業、進級に向けて、カウントダウンが始まります。子どもたちには、今日からの自分、4月からの自分をしっかりとイメージして、生活してほしいと願っています。

令和3年度から、新学習指導要領が全面実施されます！

〈参考：政府広報オンライン〉

グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、予測困難と言われる時代を生きる子どもたちには、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい人生を切りひらいていく力が求められています。学校での学びを通して、子どもたちにそのような力を育てていくために、令和3年度より新学習指導要領が全面実施されます。新学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指します。

①授業が進化します～「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶのか」も重視～

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を重視しています。子どもたちが学ぶことに興味や関心を持ち、自分の進路や職業などの方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組むこと（主体的な学び）。そして、周囲との対話やディスカッションを通して、自分の視野を広げていくこと（対話的な学び）。また、深く掘り下げたり、様々な教科等で学んだ見方・考え方を相互に関連づけて自分なりに問題を見いだしたりして、学びを深めていくこと（深い学び）。

②評価が変わります～4観点から3観点へ～

各教科の評価項目が、これまでの4観点（国語は5観点）から、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性など」の3観点になります。

③1人1台タブレットの導入～ICTを活用した指導の効率化や言語活動のさらなる充実～

Chromebook を使用して、新しい学び方をサポートします。デジタル教材を活用した授業や協働学習を取り入れながら、これからの情報化社会を生きる子どもたちを支援します。

子どもたちに必要な資質・能力を育てるためには、学校の授業だけではなく、家庭や地域の皆様のご理解とご協力が不可欠です。学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることが大切になります。皆様のかかわりが、子どもたちの「生きる力」を育てる原動力になります。ご家庭でも、ぜひ新学習指導要領の考え方や学校で学んでいることについて、話題にしてみてください。



1.29 受検激励会のようす

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました！

2学期末の「学校評価アンケート」について、生徒の結果も踏まえながら顕著な表れをご報告いたします。今回の結果をもとに、教育環境や指導方法の改善を図り、令和3年度の教育計画に反映させていきます。今後とも、教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

◎学校が楽しく、夢や希望の実現に向けて前向きに取り組める環境を目指します

①「楽しく学校生活をおくっている」 ○生徒 93.2% (1学期93.3%) ○保護者 91.7% (1学期90.2%)	②「夢や希望の実現に向けて高め合っている」 ○生徒 80.6% (1学期80.3%) ○保護者 73.0% (1学期79.0%)
--	--

⇒①②ともに、1学期に引き続き良好な結果です。ただ、「楽しくない」と回答する子どもがいるという現実、そして約1割の子どもが「楽しいのに、夢や目標がはっきりしていない」と回答していることを真摯に受け止め、これまで以上に子ども理解に努め、丁寧な支援を継続していきます。

◎家庭学習の習慣化は、確かな学力の礎です

①「家庭学習を継続している」 ○生徒 79.1% (1学期78.7%) ○保護者 71.5% (1学期72.9%)	②「1年生70分/2年生80分/3年生90分以上の家庭学習に取り組んでいる」 ○生徒 57.7% (1学期57.3%) ○保護者 51.6% (1学期52.8%)
---	---

⇒どちらの項目も「生徒」「保護者」とともに、低い数値を示しています。自らの学習状況を振り返り、改善が必要な教科について計画的に補習する、興味のあることをさらに深く追求してみるなど、まずは自分なりの取組を習慣づけるようにしたいものです。学校でも、授業内容によって予習・復習を課すなど、「わかった」「できた」が実感できる家庭学習のあり方を各教科で模索しているところです。

◎自分のよさや相手を尊重できる関係づくりに努めます

①「自分と違う考えの人と上手にかかわろうとしている」 ○生徒 85.0% (1学期84.6%) ○保護者 75.0% (1学期71.0%)	②「相手の気持ちを思いやる行動ができる」 ○生徒 87.6% (1学期87.7%) ○保護者 90.6% (1学期88.7%)
---	---

→①②の結果から、9割近い子どもが他者への温かい心遣いを意識して生活していることがわかります。①の保護者の数値が低いのは、思春期（反抗期）の子どもを表れの影響でしょうか。温かい心遣いは人を感動させ、幸せにします。そして、豊かな人間関係を築いていきます。優しい心遣いのできる子どもたちです。今後も、学校生活を通してお互いを認め合い、高め合えるような関係づくりに努めていきます。

生活アンケートを実施しました！

生活学習相談期間を迎えるにあたり、子どもたちに生活アンケートを実施しました。今回は、県の方針を受けて、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」に関する調査も行いました。「セクハラ」とは、相手を不快にさせる性的な発言や行為のことを指します。教職員の不祥事は、絶対あってはならないことです。今後も、子どもたちが安心して学校に通えるよう努めて参ります。なお、1月号でお知らせしました「体罰」に関する調査も合わせて受け付けています。気になることがありましたら、いつでも学校にご相談ください。

【窓口】校長、教頭（若月）、主幹（三田）

函南中学校 TEL 978-3145

【お願い】

新型コロナウイルス感染症については、変異種の出現や警戒宣言の延長等、油断のできない状態が続いています。発熱等による対応について、教育委員会より以下の点を周知するよう指導がありました。ご確認をお願いします。

- 発熱等により通院する場合は、まず病院に電話連絡をしてから指示を仰ぐようにしてください。
- 本人はもちろん、同居家族に発熱等がある場合も、念のため登校を控えていただくようお願いします。